

震災後の二〇一二年からスタートした福島県南相馬での市民を対象とした「職場のメンタルヘルス対策講座」(厚生労働省委託事業) 写真が、今年一月に終了しました。三年間の受講者の心の変化と人々の思いを共有したいと思えます。

終了後、多くの方が口にしていたこと、それは震災前、当たり前だった豊かな南相馬の自然と食への思いでした。「新鮮な魚、野菜、果物、お米など当たり前だったものが一瞬で消え去って、初めて震災前に食べていたものへの感謝の念と幸せだった時を思い出す。こ

東北復興日記

130

平成24年度 相双地域雇用創出推進事業
のメンタルヘルス対策講座」
EAP総研株式会社
EAP TOTAL RESEARCH CO., LTD.



ランスタッド株式会社
EAP総研所長
川西由美子さん

南相馬で力強く生きる

の四年は生き抜くことに精いっぱい、南相馬の豊かさを思い出す暇すらなかった。心がだいぶん落ち着いた今だからこそ、失ったものの大きさを日々考える」と。

早苗の緑のすがすがし

さ、夏の力エルの声、実りの秋の赤トンボ、今は全く見ることはできません。「でも、キレイな星空は変わりません」と。心に折り合いをつけ、この土地で生きる選択をした人々は、今ある幸せ

年間学んだ心理教育を自分だけのものにするのではなく、地域に還元したいと誓ってくださいました。

一方で南相馬が忘れられていく不安もあります。「このような環境下でも私たち市民は、忘れないでと叫ぶより、何かを発信し続けることが大事」と語ってくださいました。目の輝きは私の心に強く強く残っています。

当たり前の幸せを見つめる作業は続きます。どうか南相馬に力強く生き抜こうとしている人々がいることを忘れないでください。原発事故はまだ終わっていないのです。三年間の講座が終わった今、心の伴走者であり続けたいと誓いました。

「復興を成し遂げるのは内部の力」と、この講座の開講に思いを込めた南相馬市経済部商工労働課の課長、木村浩之さんの言葉が心に響きました。受講者の皆さまは三

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。